

校区の概要

ア 自然環境

本校区は、阿蘇郡市の北端、筑後川の最上流、阿蘇山の北面山麓に位置しており、東部は大分県玖珠郡九重町に、北部は小国町に、南部から西部にかけて本町の市原小学校区に接している。

河川は田の原川、小田川が東から西に向かって流れ、杖立川に合流し、さらに筑後川本流に注ぎ込む。

地質は阿蘇火山帯の影響を受けて全体的に土壌は肥沃な状態ではないが、山麓や一部の谷間は腐養土質に富み良好である。

また、本校区は、標高 600m～960mと高地のため比較的冷涼であり、盛夏でも 30℃を超えることはまれである。冬季には－10℃以下になることもあり、寒さは厳しく 3 月になっても積雪があることも珍しくない。

イ 社会的環境

本校は、熊本市の中心から約 80km、南小国町の中心地の赤馬場からは 9 km 離れている。東西に国道 442 号線が走り、瀬の本で九州横断道路(熊本～別府)と交差している。

校区内は、戸数約 700 戸(内就学家庭 30 戸)、人口約 1,300 人であり、人口は減少傾向にある。校区の中心に黒川温泉、西側には田の原、満願寺温泉、南側には約 2km 離れて旅館や民宿、キャンプ場として開発された小田・白川温泉、北側には大谷山温泉がある。年々道路整備も進み、黒川温泉だけでも新型コロナ流行以前は年間 100 万人近くの観光客が訪れ、観光地として発展してきている。

ウ 名所、文化財等

本校区には、建立以来 700 有余年、北条氏祈願の地としての法燈を伝える「満願寺」があり、国の重要文化財「北条時宗像」「北条時定像」や北条三代の墓地「満願寺の宝塔」、「金毘羅杉」が有名である。

なお、特別天然記念物のオキチモズク(淡水産の紅藻類)が生息する豊かな自然があり、「瀬の本高原」や「清流の森」等景観にも恵まれており、「黒川、小田、白川、大谷山、田の原、満願寺」等の温泉が有名である。

また、「吉原岩戸神楽」(国無形民俗文化財)や「扇の棒踊り」等民俗文化も传承されており、地域や子ども会を中心にその传承に努めている。

さらに、瀬の本高原を舞台に繰り上げられる「阿蘇瀬の本高原マラソン大会」は、昭和 56 年以来、毎年 1,500 人以上の参加者で賑わっている。

エ 生活及び教育に対する関心

本校区は、専業及び兼業の農業兼林業と温泉観光を目的とした旅館業や商業を主に構成されており、戦後の経済発展により観光地としても脚光を浴びてきた。さらに温泉と自然の景観を生かした観光に力を入れ、全国的に有名になってきており、生活環境も年々変化してきている。

教育に対する関心は高く、学校教育及び社会教育に対して意欲的に取り組んでいる。保護者の授業参観及び学校行事への参加は多く、学校教育に対して積極的に協力していただいている。また、校区のほぼ全世帯が「後援会」会員として、学校教育に対して積極的に協力・支援をいただいている。

3 校が統合し、「りんどうヶ丘小学校」として 20 年目になり、旧校区独自のカラーが薄れつつある中、保護者及び地域の方々の学校への関心は統合時から一貫して高い。